

先日の福岡市子ども読書フォーラムにはたくさんの方にご来場頂き、ありがとうございました！ さて、今月は12月から映画も始まるタンタンの冒険シリーズからのご紹介です。

『タンタンソビエトへ』（タンタンの冒険旅行21）

エルジェ／作 川口 恵子／訳 福音館書店 2005年 絵本（コミック）

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年★☆☆ 小高学年★★★★ 中学生★★☆
高校★★☆ 一般★★☆

（★が多い年齢の子どもにお勧めです。）

<本の紹介>

タンタンは「プチ 20 世紀」新聞のジャーナリスト。相棒である愛犬スノーウィとともにソビエト連邦へ派遣されることになりました。

ところが、タンタンがソビエトへ行くことをこころよく思わない男たちによって行きかけの列車が爆破され、タンタンはその犯人にされつかまってしまいます。タンタンは機転を利かせて牢屋から逃げ出したのですが、男たちの追跡は続き……。

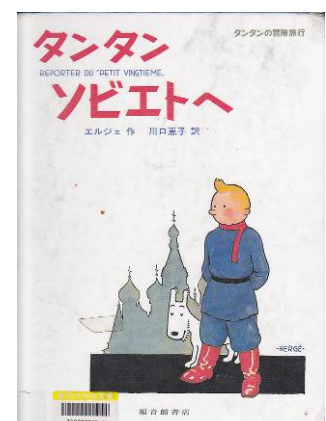
この本はタンタンの冒険旅行21となっていますが、実は幻とされていた第1作目です。タンタンを読んだことがある人も、まだ読んでいない人も、タンタン初登場の物語をぜひ読んでみてください。

<子どもに手渡すときのポイント>

1929年に書かれた「タンタンソビエトへ」は人気シリーズの1作目でありながら長いこと絶版となっていた幻の作品です。後の作品については、登場する国の文化や風習を作者は緻密に調べ正確に描写しているのですが、この作品ではその手法がまだ確立しておらず、作者のエルジェ自身がこの作品に問題を感じていたからでした。

しかし、スピード感あふれる展開や、タンタンとスノーウィの軽快な会話、常に弱い者の味方になり圧政に立ち向かうタンタンの姿勢は、後のシリーズとなんら変わりはありません。また、ソビエト連邦は現在存在しませんが、子どもたちはひとつの物語として受け入れてくれるのではないのでしょうか？

タンタンファンに熱望されて復刊した1冊。子どもだけでなく、大人の方もぜひ手にとってみてください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってご覧ください。